

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成22年7月～9月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成22年10月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 22 年 7 月～9 月期

[調査要領]

1. 調査対象

(1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、多賀城・七ヶ浜、加美、美里町、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑

(2) 対象企業数 150 企業

(3) 回答企業数 149 企業

2. 調査対象期間

平成 22 年 7 月～9 月期を対象として、調査時点は平成 22 年 9 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	34
建 設 業	24
小 売 業	44
サービス業	47
合 計	149

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 22 年 7 月～9 月)の調査において、産業全体の業況D I は、前期より 6.3 ポイント改善し△41.2 (前期△47.5) となった。

産業全体の主要D I は、売上額が△35.7(前期△49.7)、採算が△42.0(前期△52.0)、資金繰りは△31.7 (前期△42.5) といずれも好転した。

要因としては建設業が完成工事(請負工事)額D I を前期大きく悪化させたが、今期 25.2 ポイント回復させたこと、小売業の売上額D I が猛暑とエコポイント制度による影響もあり 13.7 ポイント改善したことなどが挙げられる。

反面、需要面における環境の厳しさに加え、製造業においては原材料仕入単価D I が 51.6 と高い水準にあり、他の業種においても、原材料・商品等仕入単価の上昇が経営の問題点として上位にあげられており、不安材料となっている。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事)D I は、すべての業種が好転しており(製造業 8.8 ポイント、建設業 25.2 ポイント、小売業 13.7 ポイント、サービス業 11.9 ポイント)特に建設業、小売業の好転幅が大きかった。

② 採算の状況

採算D I は、建設業が 1.8 ポイント悪化させたが、そのほかの業種は好転しており(製造業 8.8 ポイント、小売業 28.0 ポイント、サービス業 1.2 ポイント)特に小売業の好転幅が大きかった。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、小売業は前回と比較し 4.4 ポイント増加したが、その他の業種はいずれも前回よりも実施比率が下がった。(製造業△5.8 ポイント、建設業△3.7 ポイント、サービス業△8.5 ポイント)

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

売上額（完成工事）D Iは全国、東北、宮城のすべての業種において好転した。特に宮城の製造業においては0.1ポイントであるがプラス値となった。また、建設業、小売業、サービス業において、前期は全国、東北と宮城とのD Iに大きな乖離がみられたが、今期は宮城の改善幅が大きかったため、全国、東北との乖離幅が縮小した。

表一1 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 14.3	△ 12.8	△ 15.3	△ 12.3	△ 8.7	0.1
建 設 業	△ 33.5	△ 29.0	△ 40.2	△ 25.4	△ 60.0	△ 34.8
小 売 業	△ 48.1	△ 42.2	△ 50.0	△ 47.0	△ 63.7	△ 50.0
サービス業	△ 40.8	△ 35.2	△ 47.7	△ 38.8	△ 60.9	△ 49.0

② 採 算

全国、東北はすべての業種において採算D Iの変動幅は微増・微減であるが、宮城においては小売業が28.0ポイント好転し、全国との乖離幅を23.8ポイント縮小させ、製造業も乖離幅を縮小させたが、建設業、サービス業はわずかながら乖離幅が広がった。

表一2 採算の状況（前年同期比・D I値）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 26.3	△ 23.6	△ 28.5	△ 28.6	△ 38.2	△ 29.4
建 設 業	△ 40.6	△ 42.1	△ 41.4	△ 40.3	△ 44.0	△ 45.8
小 売 業	△ 47.3	△ 43.1	△ 50.5	△ 49.7	△ 72.1	△ 44.1
サービス業	△ 40.8	△ 37.6	△ 42.7	△ 43.8	△ 47.9	△ 46.7

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上（完成工事）D Iの来期見通しは、サービス業が10.8ポイント好転すると予測され、その他の業種は悪化すると予測される結果となった。（製造業△18.8ポイント、建設業△4.3ポイント、小売業△3.4ポイント）

採算の来期見通しについては建設業（4.9ポイント）、サービス業（4.2ポイント）好転すると予測され、製造業、小売業は微増・微減であり、大きな変動は見られなかった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

売上（完成工事）D Iは、表－3の通り、全国と宮城の乖離幅が縮小傾向を示し、小売業が5.9ポイント劣位にあるが、製造業、建設業、サービス業においては2ポイント未満の乖離（予測）となった。

一方、採算D Iも表－4の通り、売上（完成工事）D Iと同様の傾向にあり、サービス業の乖離が7.4ポイントの劣位にあるが、製造業、建設業、小売業においては2ポイント以下の乖離（予測）となった。

表－3 売上額（完成工事額）来期見通し (D I値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 12.8	△ 18.6	0.1	△ 18.7
建 設 業	△ 29.0	△ 37.2	△ 34.8	△ 39.1
小 売 業	△ 42.2	△ 47.5	△ 50.0	△ 53.4
サービス業	△ 35.2	△ 36.8	△ 49.0	△ 38.2

表－4 採算来期見通し (D I値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 23.6	△ 26.2	△ 29.4	△ 28.2
建 設 業	△ 42.1	△ 41.2	△ 45.8	△ 40.9
小 売 業	△ 43.1	△ 43.5	△ 44.1	△ 45.2
サービス業	△ 37.6	△ 35.1	△ 46.7	△ 42.5

2. 県下産業別の景況

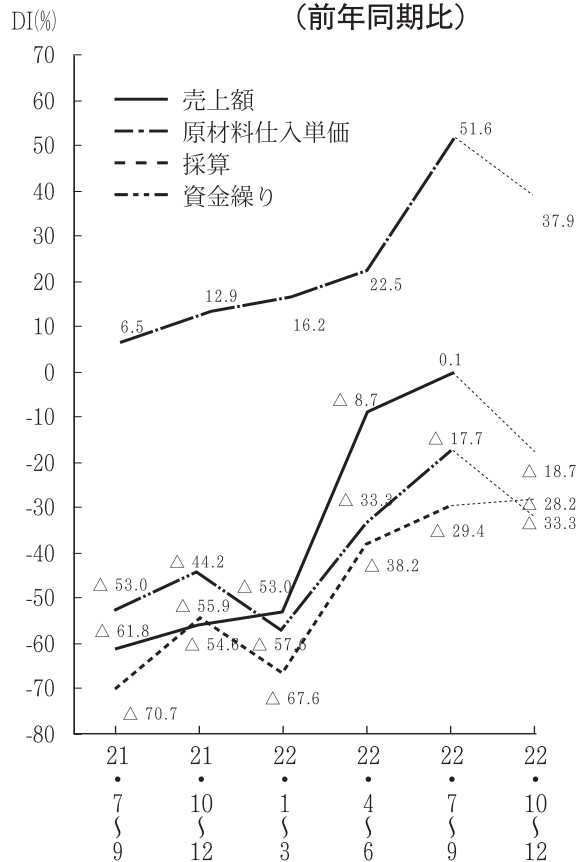
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（加工）額D Iは0.1（前期△8.7）、採算D Iは△29.4（前期△38.2）といずれも8.8ポイント好転した。資金繰りD Iも前期比15.6ポイント好転したが、原材料仕入単価が29.1ポイント上昇しD Iが51.6となり、不安要素となった。

経営上の問題点は「需要の停滞」が前回同様第一位であるが、「原材料価格の上昇」が22.6%となり第二位となった。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



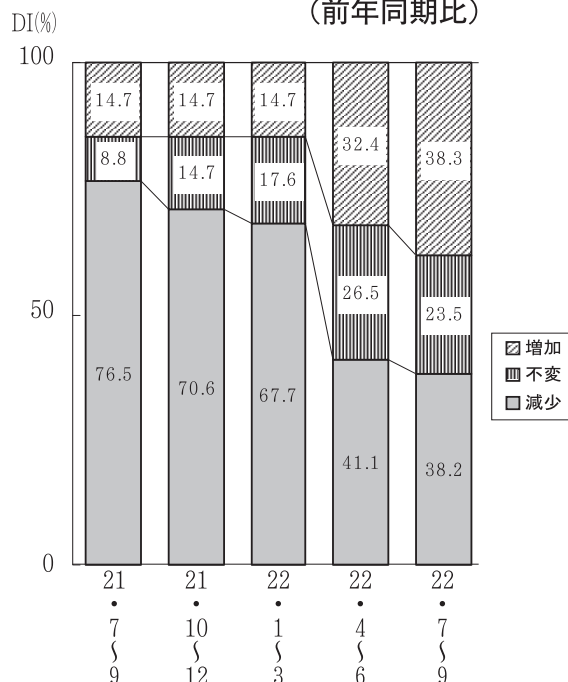
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「上昇・好転」と回答した企業は、全体の38.3%（前期32.4%）で前期比5.9ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は38.2%（前期41.1%）と前期比2.9ポイント減少した。

結果として売上額D Iは0.1（前期△8.7）となり前期比8.8ポイント好転し、プラスの値となった。

図1-2 売上(加工)額の状況
(前年同期比)

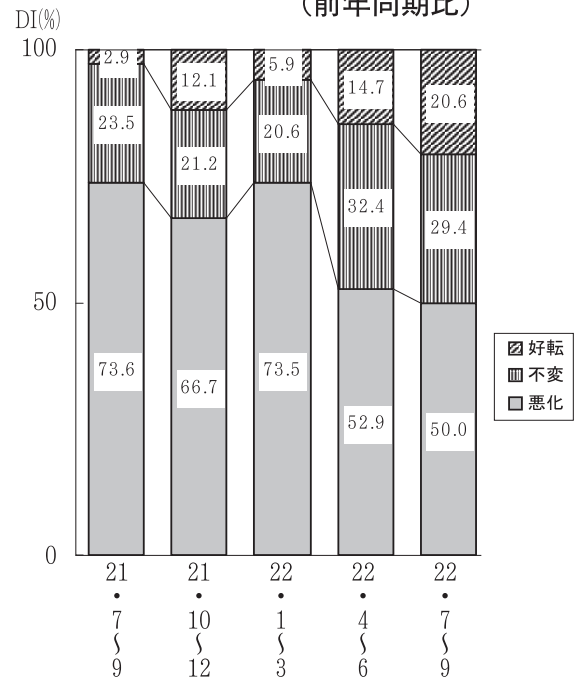


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の20.6%(前回14.7%)で5.9ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は50.0%(前回52.9%)で2.9ポイント減少した。

その結果、採算DIは△29.4(前期△38.2)となり8.8ポイント好転した。

図1-3 採算の状況
(前年同期比)



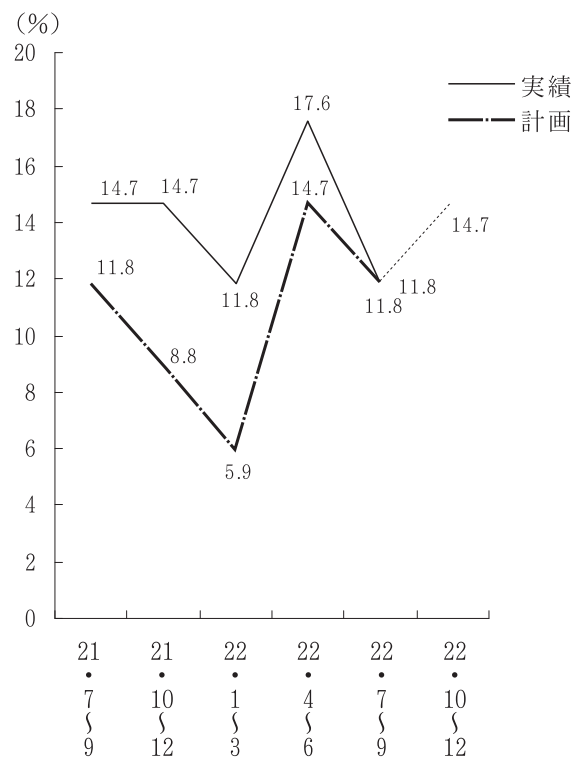
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の11.8%(前期17.6%)で5.8ポイント減少した。

その設備内容は、生産設備、工場建物、車両運搬具、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の14.7%で、その設備内容は、生産設備、車両運搬具、付帯施設、OA機器となっている。

図1-4 設備投資の状況

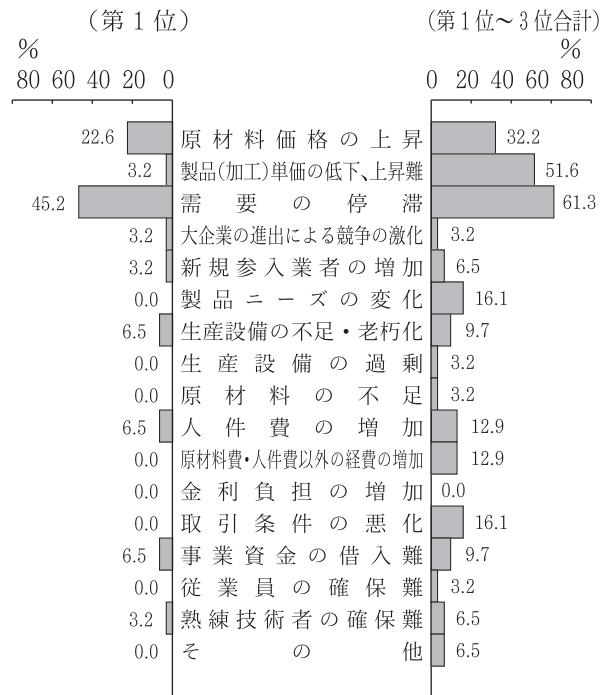


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は、「需要の停滞」(45.2%)、次いで「原材料価格の上昇」(22.6%)、「人件費の増加」と「生産設備の不足・老朽化」及び「事業資金の借入難」が6.5%と同率で並び続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(61.3%(複数回答以下同じ))、次いで「製品(加工)単価の低下、上昇難」(51.6%)、「原材料価格の上昇」(32.3%)と続いている。

図1-5 経営上の問題点



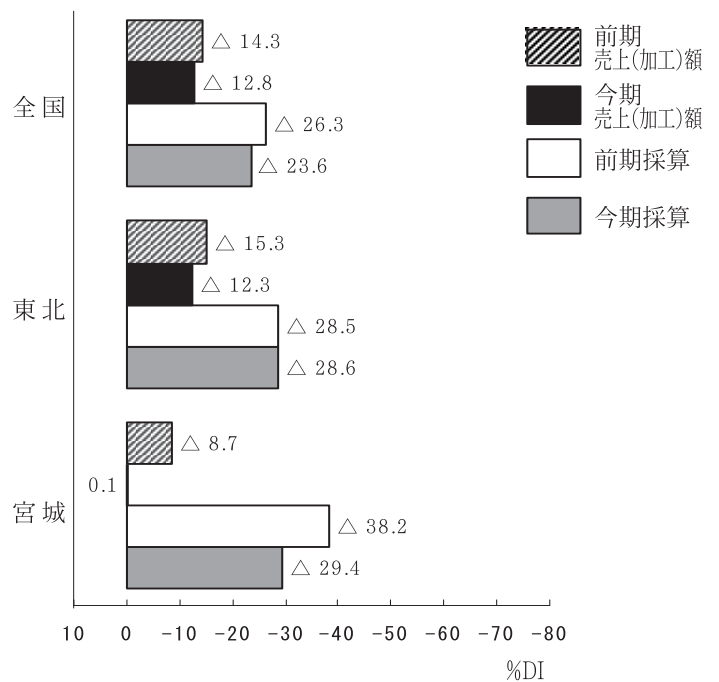
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上(加工)額DIは、全国、東北、宮城とも好転したが、特に宮城の好転幅が8.8ポイントと大きかった。

また、採算DIにおいても同様の傾向となり、宮城においては8.8ポイント好転した。

なお、業況(自社)DIは、全国が△17.3(前期△19.2)に対し、宮城は△27.3(前期△21.2)となり、売上(加工)額DIは宮城が全国を上回っているものの採算、業況等のDIは全国を下回っている。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較



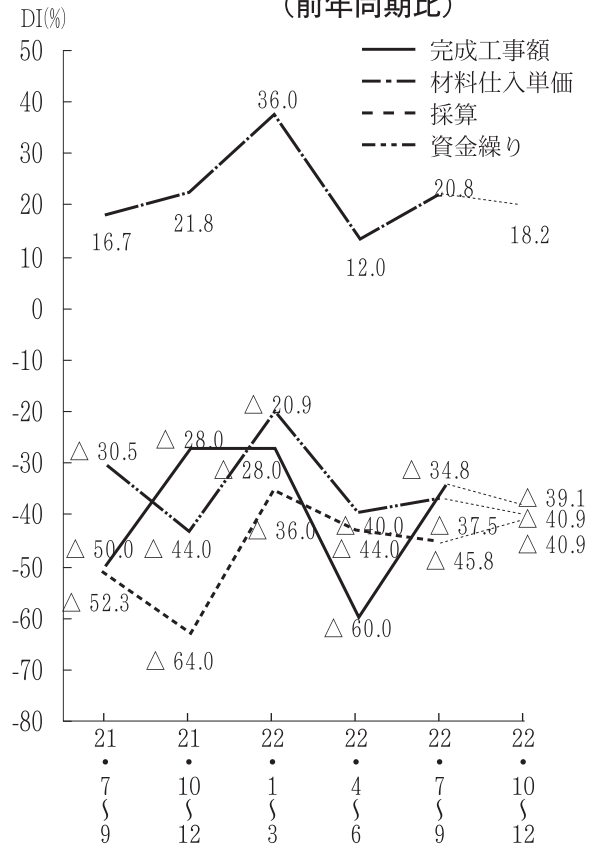
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは△34.8（前期△60.0）で25.2ポイントと大幅に改善したが、採算D Iは前期比△1.8ポイント、資金繰りD Iは2.5ポイントと微減、微増であった。

受注（新規契約工事）額D Iも△25.1まで改善しており、受注量は改善の兆しが見えるものの、経営上の問題点の第1位に「請負単価の低下、上昇難」が上げられ、工事の採算性面においては依然として厳しい経営環境下におかれている。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



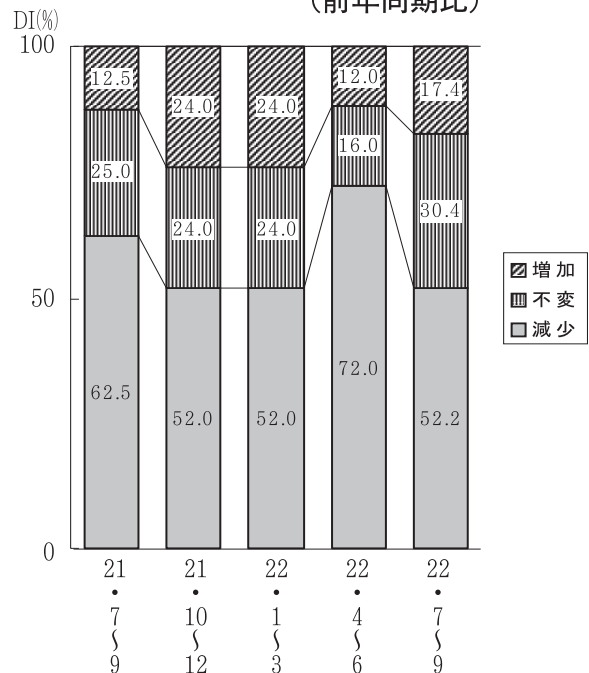
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の17.4%（前期12.0%）であり、5.4ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は52.2%（前期72.0%）と19.8ポイント減少した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△34.8（前期△60.0）と25.2ポイント好転した。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

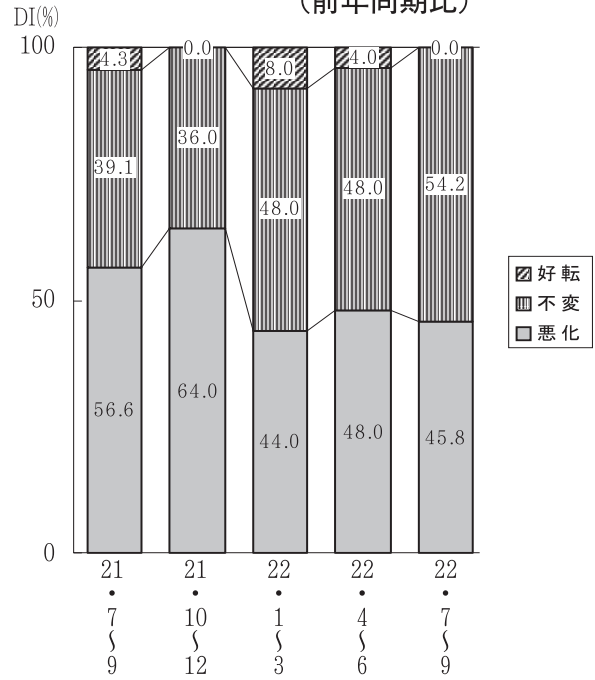


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業はなく（前回 4.0%）、「減少・悪化」と回答した企業は全体の 45.8%（前回 48.0%）であり、2.2 ポイント減少した。

その結果、採算 D I は△45.8（前期△44.0）となり、前期比 1.8 ポイント悪化した。

図 2 - 3 採算の状況
(前年同期比)

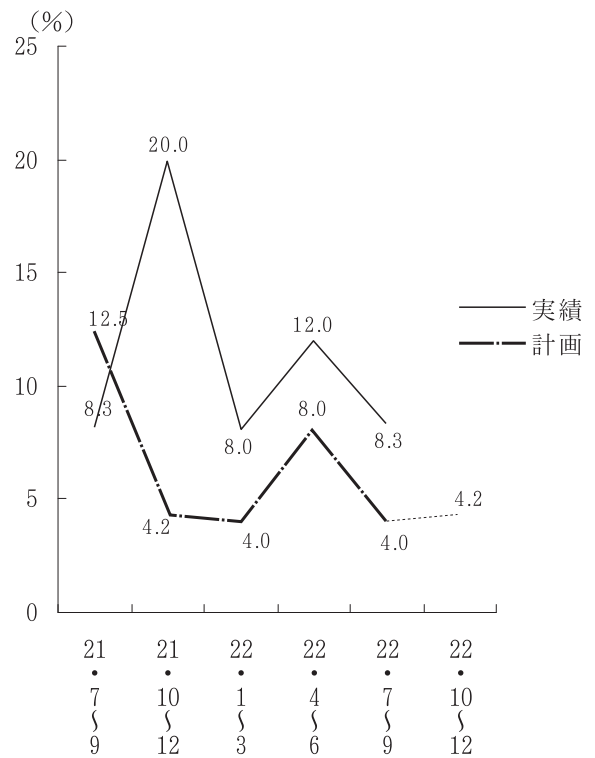


(c) 設 備 投 資

今期、新規投資を実施した企業は、全体の 8.3%（前期 12.0%）で 3.7 ポイント減少し、その設備内容は、建設機械、OA機器であった。

来期に設備計画している企業は、全体の 4.2%と依然低水準であり、その設備内容は、建物、付帯施設、福利厚生施設を計画している。

図 2 - 4 設備投資の状況

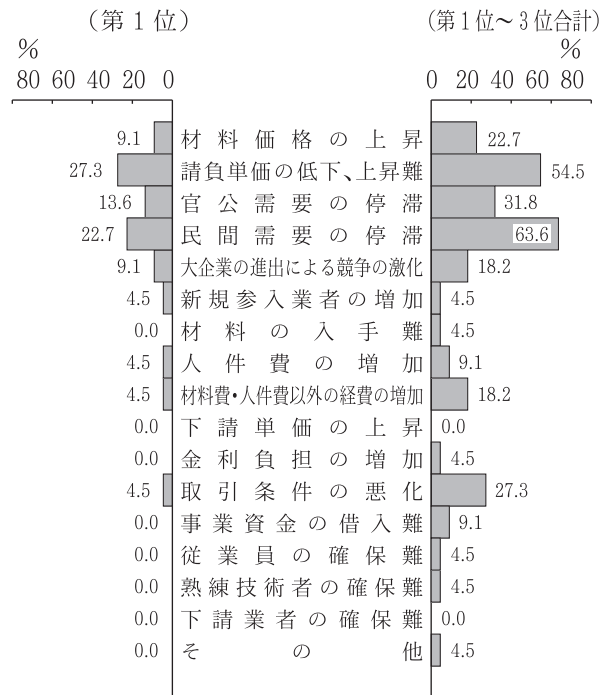


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「請負単価の低下・上昇難」(27.3%)、次いで「民間需要の停滞」(22.7%)、「官公需要の停滞」(13.6%)、「材料価格の上昇」と「大企業進出による競争の激化」とが9.1%と同率で並び続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「民間需要の停滞」(63.6%(複数回答以下同じ))、「請負単価の低下・上昇難」(54.5%)、「官公需要の停滞」(31.8%)と続いた。

図2-5 経営上の問題点

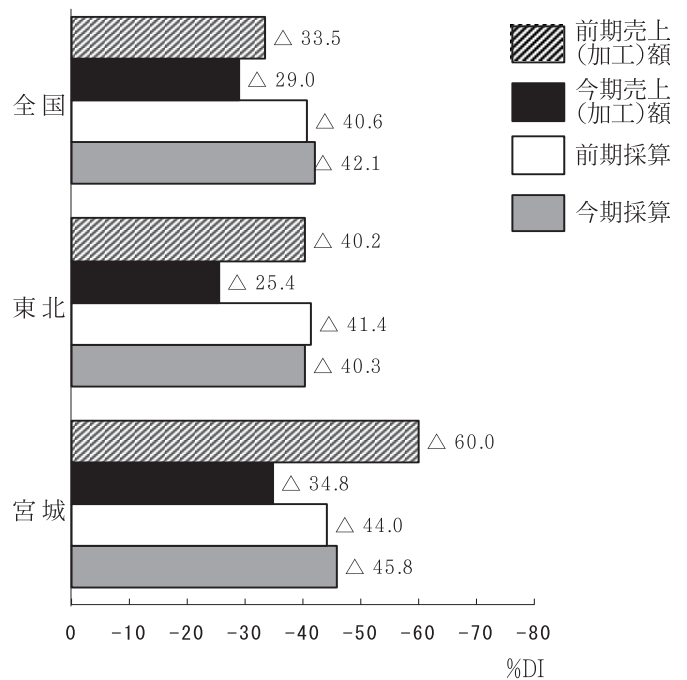


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

完成工事(請負工事)額DIは、全国・東北・宮城ともに改善しているが、特に宮城は25.2ポイントと大きく改善した。

採算DIは、変動幅が微増・微減であり、工事の採算性は依然厳しいままであり、完成工事の量のみが変動しているようである。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較



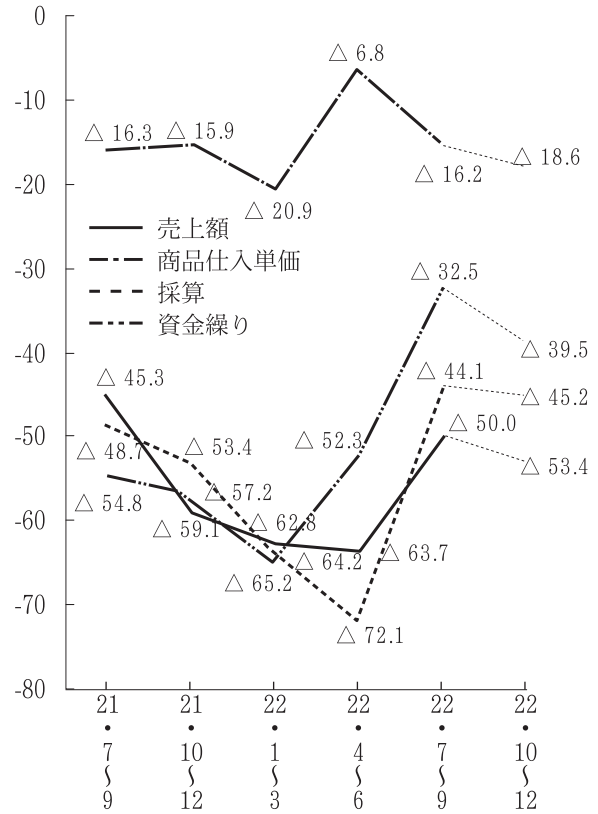
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは△50.0（前期△63.7）で13.7ポイント好転し、採算D Iも△44.1（前期△72.1）で28.0ポイント、資金繰りD Iも19.8ポイント好転し、商品仕入単価D Iも前期比9.4ポイント下がり業況の回復感がみられた。

全国、東北と比較すると、いずれも回復基調を示しているが、特に宮城の回復幅が大きく主要項目のD Iは全国との乖離幅が縮小した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



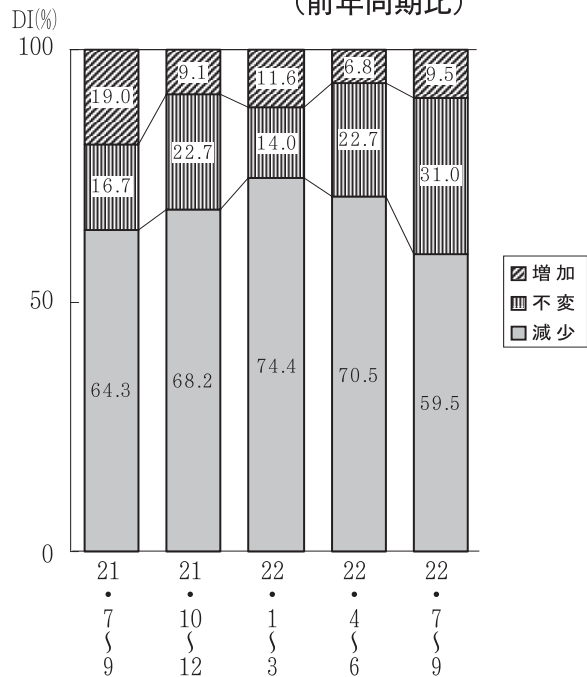
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の9.5%（前期6.8%）と2.7ポイント増加し、「減少・悪化」の回答は全体の59.5%（前期70.5%）と11.0ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは△50.0（前期△63.7）と前期比13.7ポイント改善した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

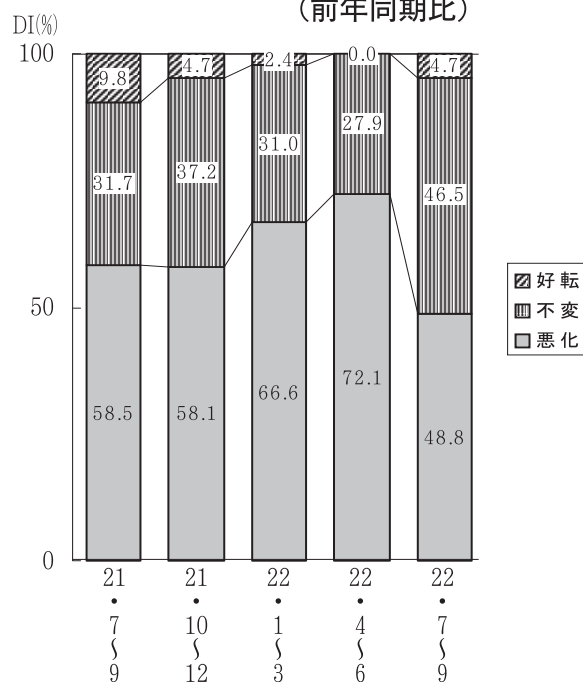


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の4.7%（前期0%）と4.7ポイント増加し、「悪化・低下」の回答は全体の48.8%（前期△72.1%）で23.3ポイント減少した。

その結果、採算D Iは、△44.1（前期△72.1）となり、前期比28.0ポイント改善した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)

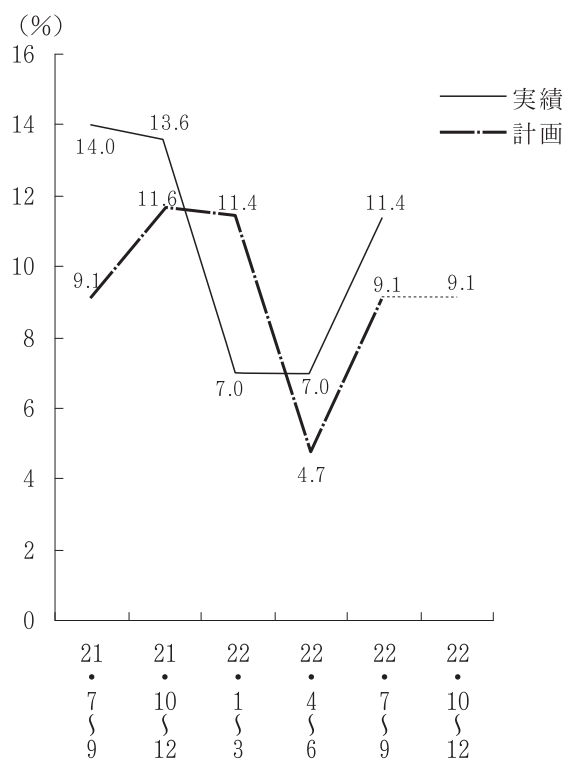


(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の11.4%（前期7.0%）で4.4ポイント増加し、その内容は、店舗、販売設備、車両運搬具、付帯施設である。

来期に設備計画している企業は9.1%で、その内容は、車両運搬具、付帯施設、OA機器、その他を想定している。

図3-4 設備投資の状況

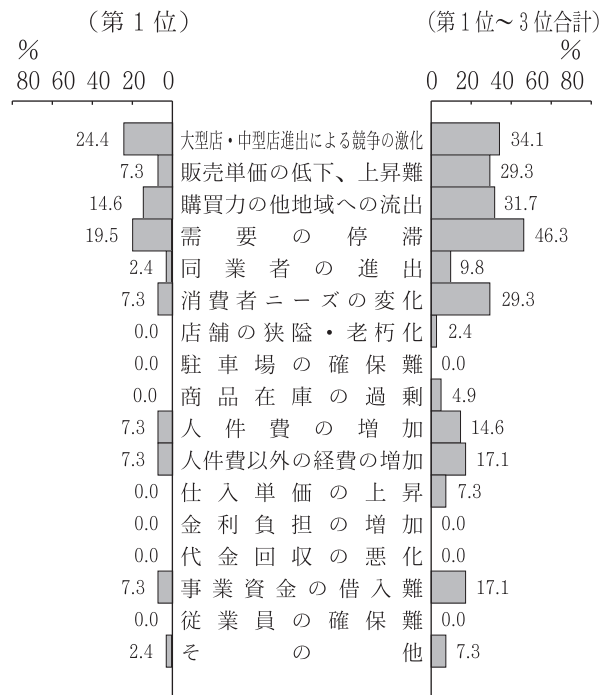


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(24.4%)、次いで「需要の停滞」(19.5%)、「購買力の他地域への流出」(14.6%)と続いた。

重要度第1位から第3位合計は、「需要の停滞」(46.3% (複数回答以下同じ))、次いで「大型店・中型店の進出による競争の激化」(34.1%)、「購買力の他地域への流出」(31.7%)、「消費者ニーズの変化」と「販売単価の低下、上昇難」とが29.3%と同率で並び続いた。

図3-5 経営上の問題点

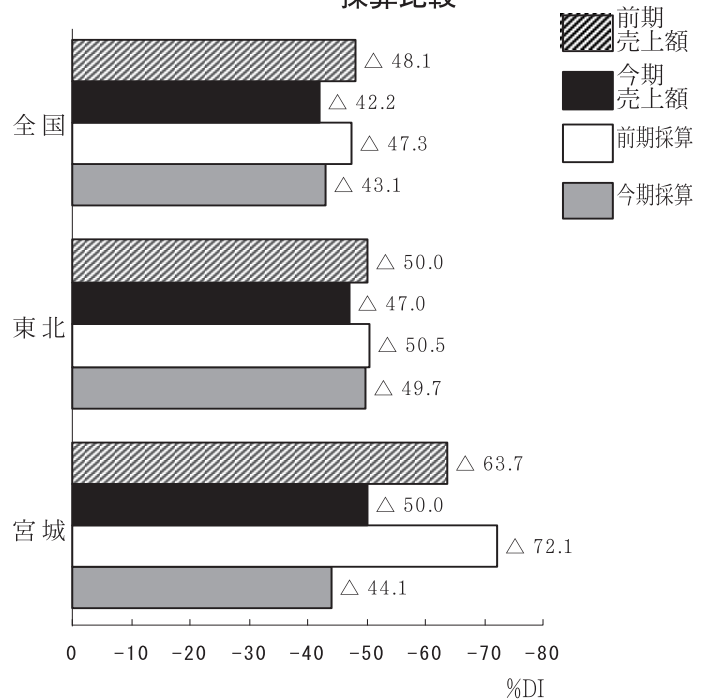


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額は、全国、東北、宮城ともに回復基調にありマイナス幅を縮小した、特に宮城は前期比13.7ポイントと改善幅が大きかった。

採算についても同様であり、全国、東北、宮城ともに回復基調にあり、宮城は28.0ポイント改善させ、全国との乖離もほぼ解消した。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較



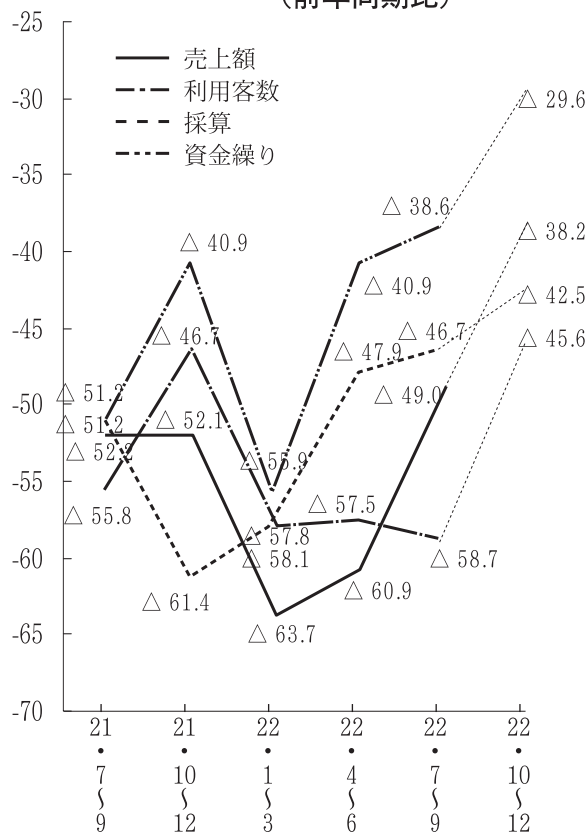
(4) サービス業の動向

①主要景況項目から見たあらまし

利用客数D Iが△58.7(前期△57.5)で1.2ポイント悪化したが、売上(収入)額D Iは△49.0(前期△60.9)で11.9ポイント、採算D Iは1.2ポイント、資金繰りD Iは2.3ポイントといずれも前期比を好転させた。

しかしながら、全国のD Iと比較すると、売上(収入)額D I(全国△35.2、宮城△49.0)、利用客数D I(全国△36.7、宮城△58.7)と乖離幅は前回よりは縮小しているものの、宮城は依然として回復の足取りが重い状況となっている。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



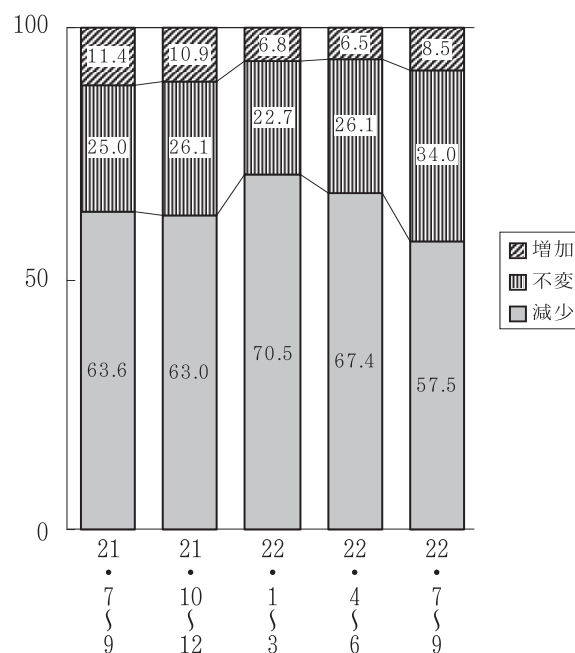
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の8.5%(前回6.5%)で2.0ポイント増加し、「減少・悪化」の回答は57.5%(前回67.4%)で、9.9ポイント減少した。

その結果、売上(収入)額D Iは△49.0(前期△60.9)で前期比11.9ポイント好転した。

図4-2 売上(収入)額の状況
(前年同期比)

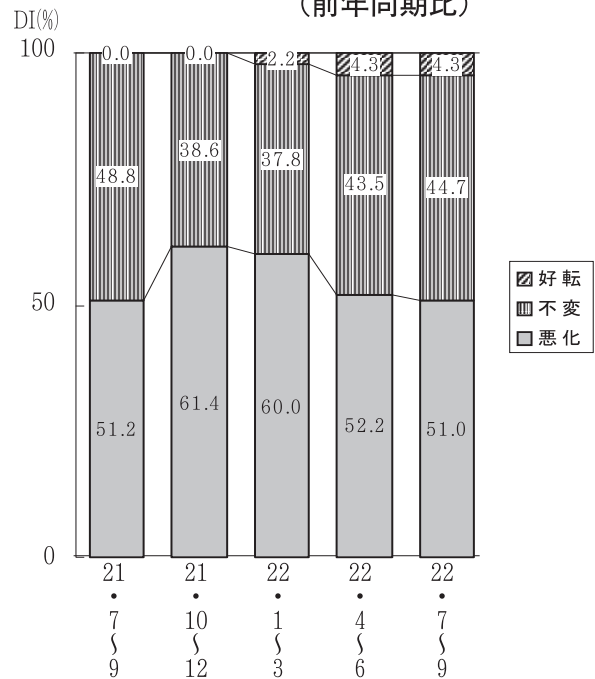


(b) 採 算

「好転・上昇」と回答した企業は 4.3% で前回と同率であり、「低下・悪化」と回答した企業は 51.0%(前回 52.2%)と、1.2 ポイント減少した。

その結果、採算DIは△46.7(前回 47.9) となり、前期比 1.2 ポイント改善した。

図 4 - 3 採算の状況
(前年同期比)



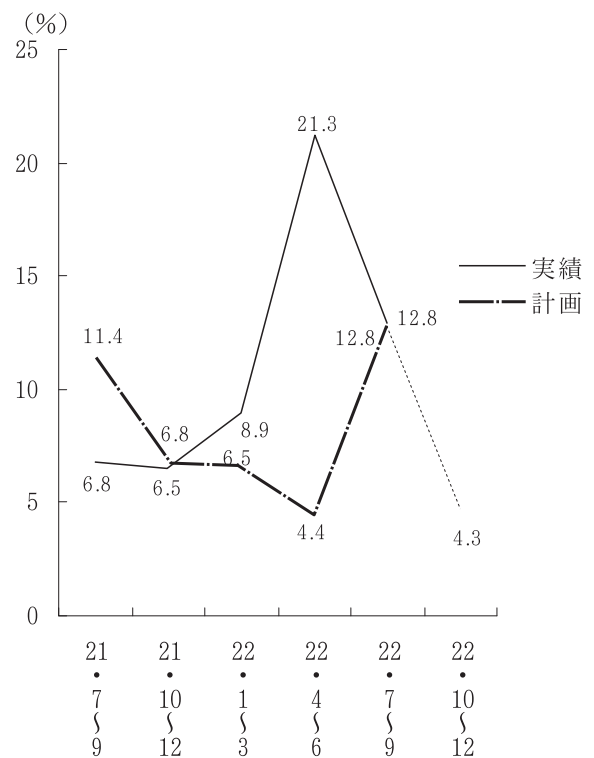
(c) 設 備 投 資

今期、新規投資を実施した企業は、全体の 12.8%(前期 21.3%)で 8.5 ポイント減少した。

その設備内容は、建物、サービス、付帯施設、OA機器、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は、4.3%であり、その内容も、建物、サービス、付帯設備、OA機器となっている。

図 4 - 4 設備投資の状況

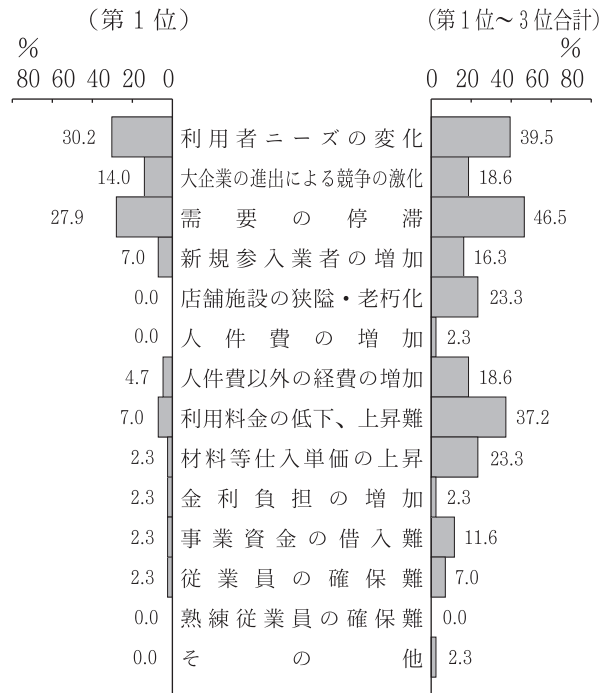


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「利用者ニーズの変化」(30.2%) 次いで「需要の停滞」(27.9%)、「大企業の進出による競争の激化」(14.0%)と続いている。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(46.5%(複数回答以下同じ))、次いで、「利用者ニーズの変化」(39.5%)、「利用料金の低下・上昇難」(37.2%)、「材料等仕入単価の上昇」と「店舗施設の狭隘・老朽化」が23.3%と同率で並び続いた。

図4-5 経営上の問題点

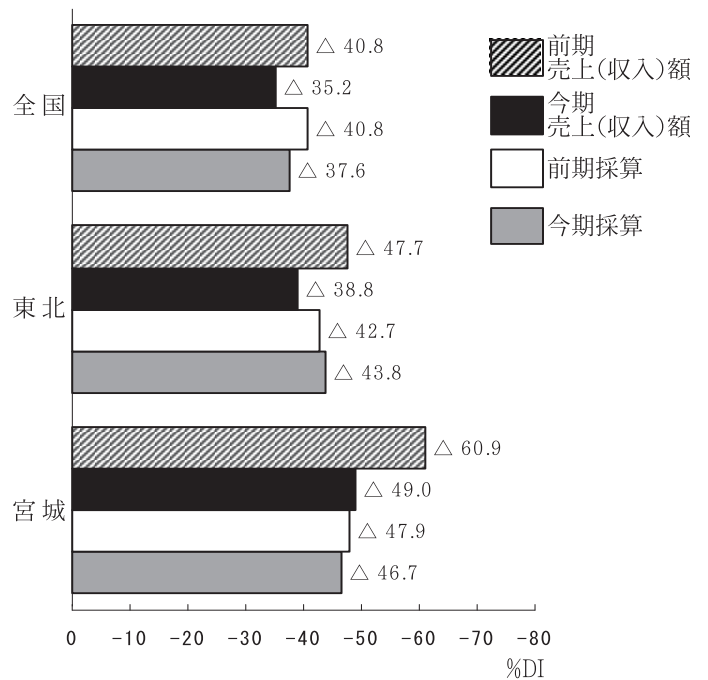


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上額DIは、全国、東北、宮城いずれも回復傾向を示しているが、特に宮城は11.9ポイント改善し、全国と宮城を比較すると乖離幅が△13.8ポイント(前回△20.1ポイント)と6.3ポイント縮小した。

採算DIは、変動幅が微増・微減であり、全国との乖離幅は△9.1ポイント(前回△7.1ポイント)と2.0ポイント拡大した。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較





古紙配合率70%再生紙を使用しています